

高知市立中央公民館事業 高知市民の大学 第99期生 募集要項

21世紀に入り、世界も日本も大きな曲がり角に来ているように思われます。拡大から縮小へ、競争から共存へ、社会も私たちの生活も大きく変わりつつあり、新しい価値観も生まれてきています。しかし一方では、これらの変化には惑わされずに、数千年の人類の歴史を貫く価値観も厳然として存在しています。私たちは社会の変化を知り、これに対応する必要に迫られる一方で、時間と空間を超えた不变の真理にも心を惹かれます。

1977(昭和52)年の創設以来、県下における生涯学習のパイオニアである「高知市民の大学」は、「食品」や「経済」といった生活に密着した問題と、「宇宙」や「心」のようないわば「不易」な問題をバランスよく取りあげて、毎回多くの市民の皆様に受講していただいております。大学外や県外からも魅力ある講師をお招きするのも本大学の特徴です。

タベのひと時、共に学び、共に考えませんか? 知の刺激は心地よいものです。

- 1 在学期間 2026年4月3日～2026年7月21日
- 2 場所 高知市文化プラザかるぽーと11階 高知市立中央公民館 大講義室
- 3 曜日と時間 火曜日18:30～20:00
 - ・自然科学コース「高知県の動植物～自然史研究と最近の話題～」
 - 金曜日18:30～20:00
 - ・総合コース「分断と再生：激変する世界(不安の時代)」
- 4 募集人員 各コース80名(先着順)
- 5 受講料 1コース 2,800円(テキスト代500円を含む)
両コース一括 4,800円(テキスト代1,000円を含む)
※定員に余裕がある場合は1日だけの受講も可能 各回500円
- 6 申し込み 2026年3月1日(日)から高知市文化プラザかるぽーと8階文化振興事業団で受け付け(月曜を除く8:30～20:00)
高知市九反田2-1 TEL 088-883-5071 FAX 088-883-5069
- 7 その他
 - ・講義の課程は裏面のとおりですが、講師の都合や天候等により、やむを得ず日程変更や中止、講師のリモート出演となることがあります。
 - ・10日以上出席した受講生には、最終日に修了証書を授与します。
 - ・会場には有料駐車場(4月1日より30分ごとに100円、上限800円)があります。

※身体障害者手帳(1～4級)をお持ちの方は最初の1時間の駐車料金が無料になります。

■主催

高知市民の大学運営委員会

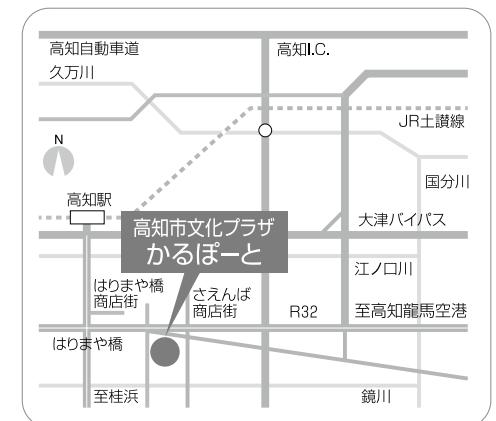
(委員長 村瀬 儀祐)

公益財団法人高知市文化振興事業団

高知市

■後援

高知新聞社／RKC高知放送



各コースのスケジュールは裏面に掲載 ▶

◆火曜日 18:30~20:00/自然科学コース
「高知県の動植物～自然史研究と最近の話題～」

月 日	講義テーマ(内容)	講 師
4月 7日	高知県の海産魚と分類研究史	高知大学理工学部 教授 遠藤 広光
4月14日	高知の植物と牧野富太郎の足跡	高知県立牧野植物園植物研究課 樹木医・学芸員 藤井 聖子
4月21日	高知県の海産・淡水産貝類の今と昔(化石)	高知化石研究会 会長 三本 健二
4月28日	高知県と陸産貝類	高知市みどり課アニマルランド 飼育担当係長 山崎 博継
5月12日	海底の巣穴の中の生物のくらし	高知大学教育学部 教授 伊谷 行
5月19日	化石探偵の話： 巣穴の化石から読む動物たちの暮らし方	高知大学理工学部 教授 奈良 正和
5月26日	高知のサンショウウオにおけるあれこれ ～オオサンショウウオを中心～	越知町立横倉山自然の森博物館 学芸員 谷地森 秀二
6月 2日	高知県の鳥類相と近年の変化、人間との関わり	日本野鳥の会高知支部 会員 谷岡 仁
6月 9日	高知県のニホンザル生息状況 野ネズミと種子散布	NPO法人四国自然史科学研究センター 副センター長 葦田 恵美子 NPO法人四国自然史科学研究センター 研究員 柴山 理彩
6月16日	高知の身近な昆虫を調べてみて	株式会社相愛 自然環境調査課 辻 雄介
6月23日	高知県の淡水魚と研究史	株式会社相愛 自然環境調査課 課長 高橋 弘明
6月30日	高知県のクラゲたち—その不思議な生態を追って	公益財団法人黒潮生物研究所 主任研究員 戸篠 祥
7月 7日	海洋温暖化で変わりゆく高知の藻場	高知大学総合研究センター 海洋生物研究教育施設 技術専門職員 田中 幸記
7月14日	高知県のコケ植物、 知られざる魅力と伸びしろを知ろう	高知大学理工学部 講師 片桐 知之
7月21日	高知に来るウミガメたちの話題あれこれ	高知大学総合研究センター 海洋生物研究教育施設 教授 斎藤 知己

※5月5日は休講

◆金曜日 18:30~20:00/総合コース
「分断と再生：激変する世界(不安の時代)」

月 日	講義テーマ(内容)	講 師
4月 3日	イスラエルAI兵器による「巻き添え被害」 (子供2万人の死)	高知大学・高知工科大学名誉教授 村瀬 儀祐
4月10日	境界線の向こうで、私はあなたに出逢いなおす ——帝国の敗北とアメリカ市民の抵抗	高知県立大学文化学部 教授 白岩 英樹
4月17日	EU・東欧社会の苦悩と再生	立命館大学BKC社会系研究機構 社会システム研究所 上席研究員 田中 宏
4月24日	ガザからの手紙、その後	高知新聞記者 村瀬 佐保
5月 1日	歴史家の目—日本、中国、米国をめぐる—	高知大学名誉教授 吉尾 寛
5月 8日	憲法から「平和」を考える	高知大学人文社会科学部 准教授 岡田 健一郎
5月15日	韓国・台湾の福祉事情から学び得たこと	高知県立大学社会福祉学部 教授 田中 きよむ
5月29日	日本社会の「失われた30年」と外国人労働者	高知大学人文社会科学部 教授 岩佐 和幸
6月 5日	中進国・チリで勃発した「社会危機」	高知大学人文社会科学部 准教授 中西 三紀
6月12日	ラテンアメリカからみる移民問題	高知大学グローバル教育支援センター 特任助教 長野 はな
6月19日	中東・北アフリカのイスラーム復興と女性	高知大学人文社会科学部 講師 山本 沙希
6月26日	教育における分断 —いわゆるスクールカーストについて—	高知大学教育学部 教授 加藤 誠之
7月 3日	外的ショック下における社会的適応力： 戦時下ウクライナの事例	高知工科大学 フューチャー・デザイン研究所 講師 オヴィアンニコウ コスチャンチン
7月10日	不安の社会を生きる	元高知大学教員 原崎 道彦
7月17日	米シンクタンク「ガザ復興プラン」について	高知大学・高知工科大学名誉教授 村瀬 儀祐

※5月22日は休講